

15
ダビデ
聖書伝説 99

「人生の谷間を 歩む時に」

サムエル記第二 15~16章

アブサロムの反乱

アウトライン

0. イントロダクション
I. アブサロムの反乱 15章

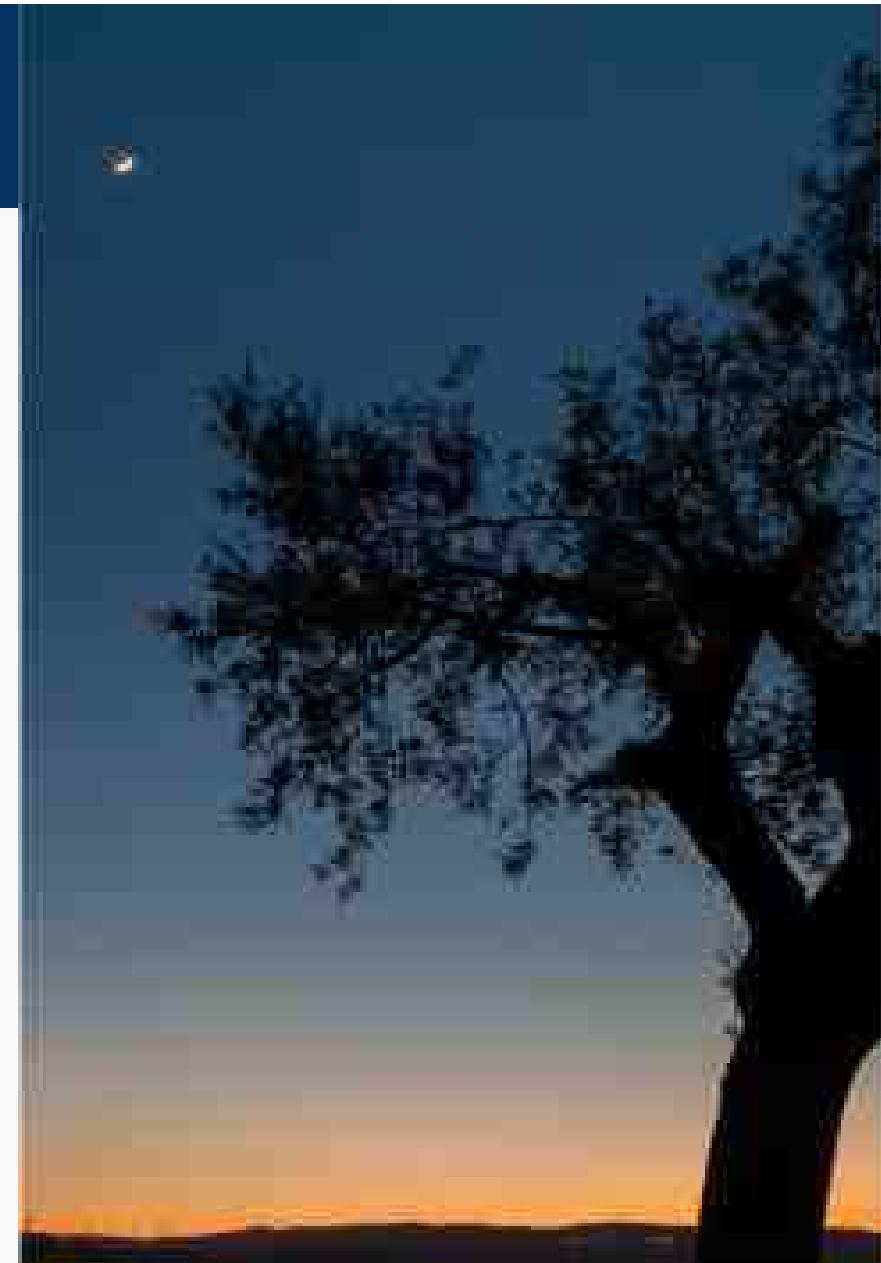
II. ダビデの都落ち 16章

聖書朗読：詩篇3篇

III. まとめと適用

悔い改めつつ

救いの確信を深めよう





【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

異邦人の時

★イスラエルの歩み★

南北分裂 前950

北イスラエル滅亡 前722

新しい契約

ダビデ契約

土地の契約

モーセ契約

出エジプト 前1290
【エジプトでの四〇〇年】

【族長時代】

アブラハム契約

サムエル記 第二

ダビデ王の治世の正と負	ユダの王	1:1~27	サウルとヨナタンの死
		2:1~4:12	ユダの王に即位
	イスラエルの王	5:1~25	エルサレム遷都 全イスラエルの王に
		6:1~25	神の箱が都に上る
		7:1~29	ダビデ契約 の締結
		8:1~9:11	ダビデの治世 領土の拡大・義と憐れみ
	失墜する王の権威	10:1~12:31	アンモンとの戦い ダビデの過ちと悔い改め
		13:1~14:33	悪化する家族問題
		15:1~18:32	アブサロムの謀反 ダビデの都落ち
		19:1~20:26	ダビデの帰還
	追記	21:1~22	サウルの氏族の末路・戦士ダビデの引退
		22:1~51	ダビデの歌
		23:1~39	ダビデの遺言 勇士たちの記録
		24:1~25	人口調査 ダビデの罪と罰

【ダビデの足取り】

- ダビデ王は、エルサレムを都とし神の箱を担ぎ上げた。神は、ダビデの王家を永遠に守り導き、子孫から、メシアが誕生することを告げられた。**→ダビデ契約**
- 周辺諸国の平定を間近にしたある時、ダビデは、バテ・シェバと姦淫を犯し、夫ウリヤを戦死に見せかけ殺害。
- 腹違いの妹タマルを犯した長男アムノンを、三男アブサロムは殺害。3年後に帰還をゆるされた。

ダビデの身に、主が告げたさらなる罪の刈り取りが





I. アブサロムの反乱

サムエル II 15章

エルサレムの城壁

【力を誇示するアブサロム】 II サムエル15:1

その後、アブサロムは自分のために戦車*と馬*、そして自分の前に走る者五十人*を手に入れた。

* 戦車は当時の最強の兵器。 いずれも力の象徴。

王のように振る舞い、力を誇示するアブサロム。

→ 民にアピールし、支持を得るために策動

■ 王となるための下準備がすでに始まっていた。

→ 周到に反逆の備えをするアブサロム。

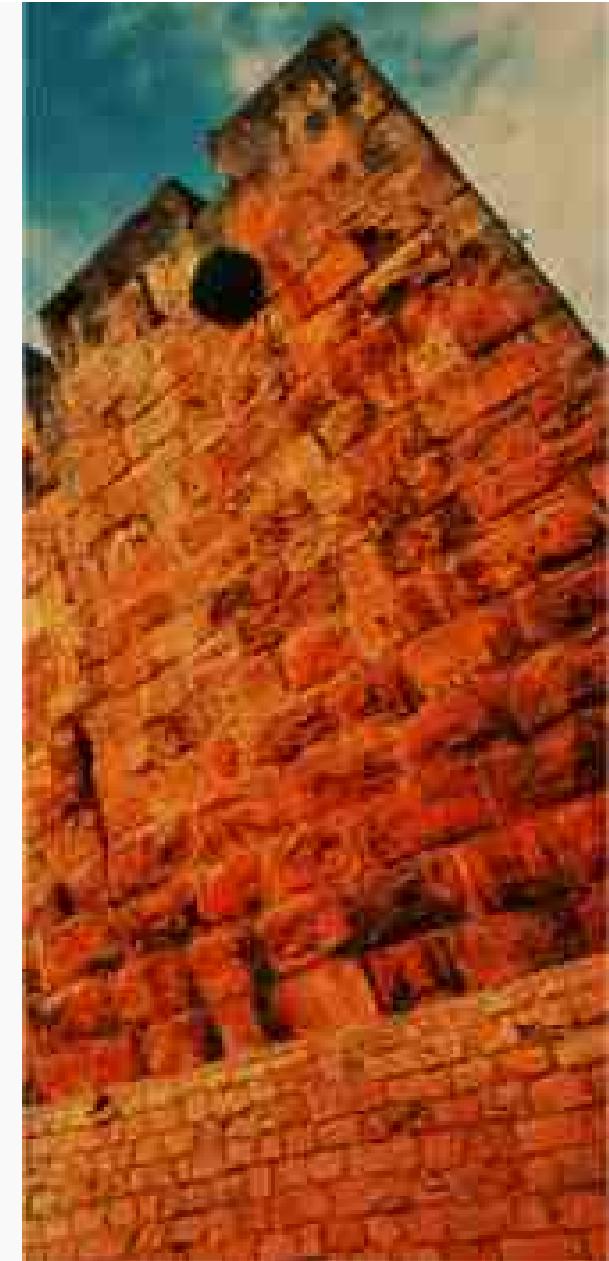


【アブサロムの策謀】 II サムエル15:2~3

アブサロムはいつも、朝早く、門に通じる道のそば*に立っていた。さばきのために王のところに来て訴えようとする者がいると、アブサロムは、その一人ひとりを呼んで言っていた。「あなたはどこの町の者か。」その人が「このしもべはイスラエルのこれこれの部族の者です」と答えると、

アブサロムは彼に、「聞きなさい。あなたの訴えは良いし、正しい。だが、王の側にはあなたのことを聞いてくれる者はいない」と言っていた。

*今で言うなら裁判所や議会の前。



【盗まれた民の心】 II サムエル15:4~6

さらにアブサロムは、「だれか私をこの国のさばき人に立ててくれないだろうか。訴えや申し立てのある人がみな、私のところに来て、私がその訴えを正しくさばくのだが」と言っていた。

人が彼に近づいてひれ伏そうとすると、彼は手を伸ばし、その人を抱いて口づけしていた。

アブサロムは、さばきのために王のところにやって来る、すべてのイスラエルの人々にこのようにした。アブサロムはイスラエルの人々の心を盗んだ。

■力を誇示する一方で、知恵と憐れみも演出。



【ヘブロンへ】 II サムエル15:7~9

四年たって、アブサロムは王に言った。「私が【主】に立てた誓願を果たすために、どうか私をヘブロン*に行かせてください。このしもべは、アラムのゲシュルにいたときに、『もし【主】が私を本当にエルサレムに連れ帰ってくださるなら、私は【主】に仕えます』と言って誓願を立てたのです」王は言った。「安心して行って来なさい。」彼は立って、ヘブロンに行った。



復讐には2年
謀反には4年

*由緒あるユダ族の町で謀反の狼煙を挙げようと。

→主への信仰すら己の野心に利用する不遜と傲慢

【周到に討たれた布石】 II サムエル15:10～12

アブサロムはイスラエルの全部族に、ひそかに人を遣わして言った。「角笛が鳴るのを聞いたら、『アブサロムがヘブロンで王になった』と言いなさい。」

アブサロムとともに、二百人の人々がエルサレムを出て行った。その人たちは、**ただ単に招かれて行った者たち**で、何も知らなかった。

アブサロムは、いけにえを獻げている間に、人を遣わして、ダビデの助言者ギロ人**アヒトフェル***を、彼の町ギロから呼び寄せた。この謀反は強く、アブサロムにくみする民が多くなった。

*ブレインも呼び寄せ、いよいよ決行も間近!!



【ダビデの判断】 II サムエル15:13～14

ダビデのところに告げる者が来て、「イスラエルの人々の心はアブサロムになびいています」と言った。

ダビデは、自分とともにエルサレムにいる家来全員に言った。「さあ、逃げよう。そうでないと、アブサロムから逃れる者はいなくなるだろう。すぐ出発しよう。彼がすばやく追いついて、私たちに害を加え、剣の刃でこの都を討つといけない*から。」

■謀反を知り、即座に逃げ出すと決めたダビデ。

→*都と民を巻き込むわけにはいかないと。



【残された側女たち】 II サムエル15:15～16

王の家来たちは王に言った。「ご覧ください。私たち、あなたのしもべどもは、王様の選ばれるままにいたします。」

王は出て行き、家族のすべての者も王に従った。しかし王は、王宮の留守番に十人の側女を残した*。

*正妻でない側女なら、命を捕らえることはないと判断したか。

→神の裁きの預言が成就することに。



【ガテ人イタイ】 II サムエル15:17～19

王と、王に従うすべての民は、出て行って町外れの家にとどまったく(集合した)。王のすべての家来は王の傍らを進み、すべてのクレタ人と、すべてのペレテ人、そしてガテから王について来た六百人のガテ人*がみな、王の前を進んだ。

王はガテ人イタイに言った。「どうして、あなたもわれわれと一緒に行くのか。戻って、あの王のところにとどまりなさい。あなたは異国人で、自分の国からの亡命者なのだから。」



*残存兵の主力は異邦人。ガテのペリシテ人も!!

【亡命者イタイの忠誠】 II サムエル15:20～22

あなたは昨日来たばかりなのに、今日、あなたをわれわれと一緒にさまよわせるのは忍びない。私はこれから、あてどもなく旅を続けるのだから。あなたの兄弟を連れて戻りなさい。恵みとまことがあなたとともににあるように。」

イタイは王に答えて言った。「**【主】**は生きておられます。そして、王様も生きておられます。王様がおられるところに、生きるためでも死ぬためでも、このしもべも必ずそこにいます。」

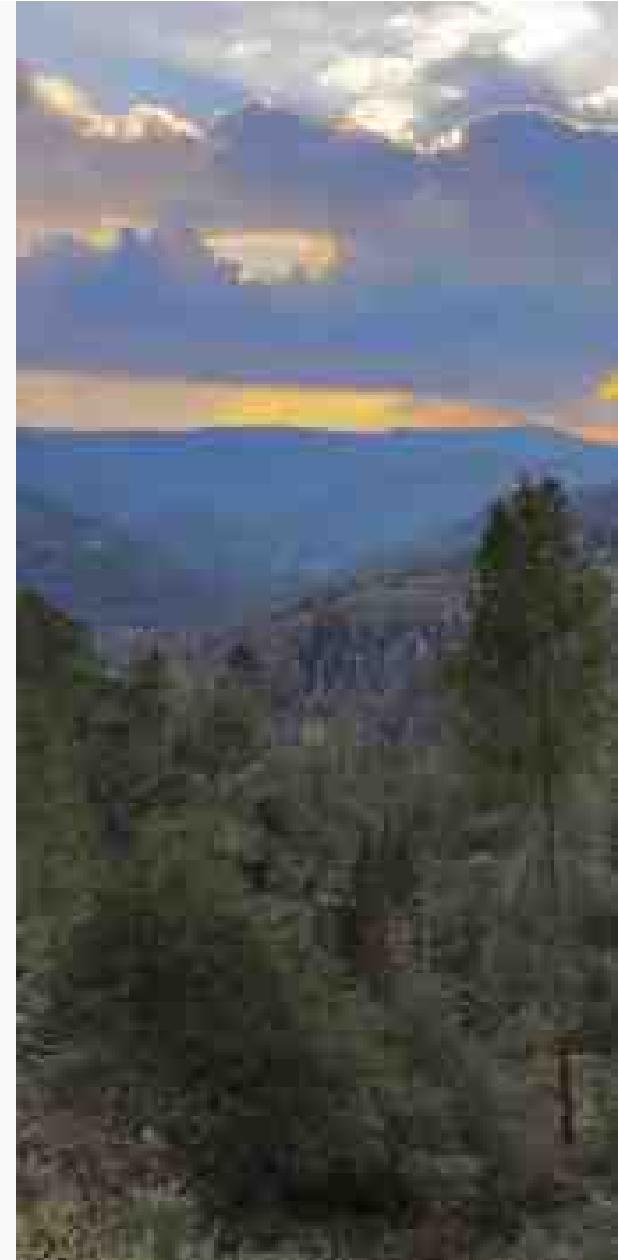
ダビデはイタイに言った。「では、進んで行きなさい。」ガテ人イタイは、彼の部下全員と、一緒にいた子どもたち全員を連れて、進んで行った。



【荒野への道】 II サムエル II 15:23～24

この民がみな進んで行くとき、國中は大きな声をあげて泣いた。王はキデロンの谷を渡り、この民もみな、荒野の方へ渡って行った。

見よ、ツアドク(祭司)も、すべてのレビ人と一緒に神の契約の箱を担いでいた。民がみな都から出て行ってしまうまで、彼らは神の箱を降ろし、エブヤタルがささげ物を獻げた。



【覚悟と信頼】 II サムエル15:251~6

王はツアドクに言った。「神の箱を都に戻しなさい。もし私が【主】の恵みをいただくことができれば、主は、私を連れ戻し、神の箱とその住まいを見させてくださるだろう。」

「もし主が『あなたはわたしの心にかなわない』と言われるなら、どうか、主が良いと思われることをこの私にしてくださいるように。」



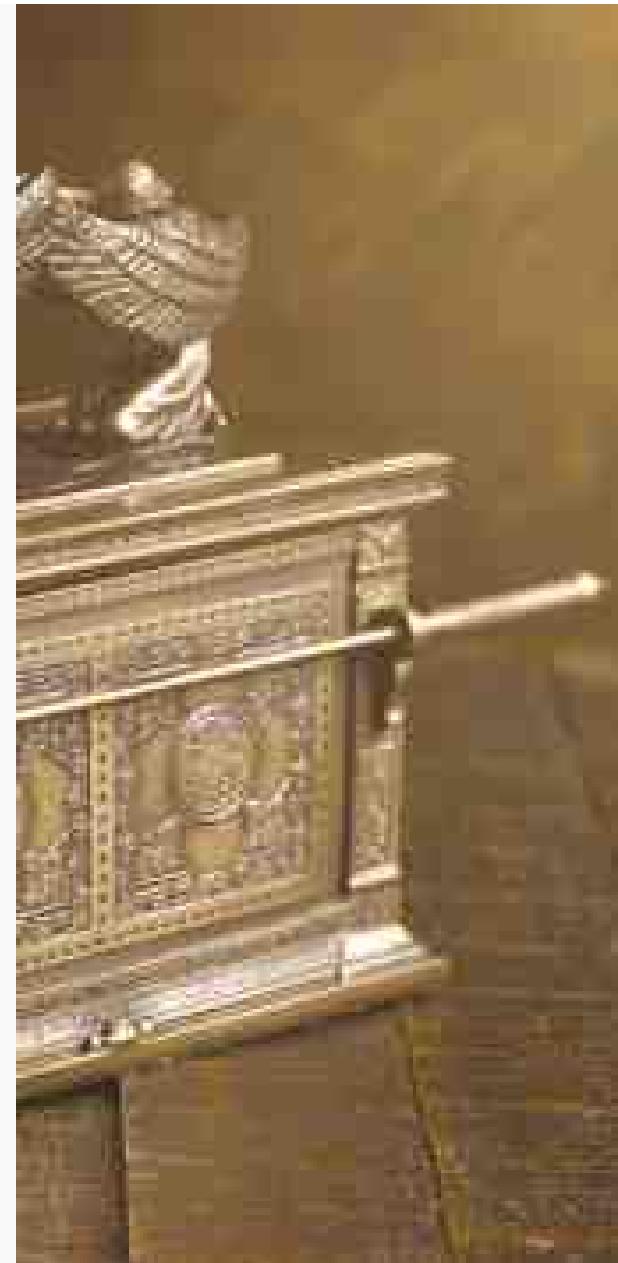
【都に残る祭司たち】 II サムエル15:27～28

王は祭司ツアドクに言った。「あなたは先見者*ではないか。安心して都に帰りなさい。あなたがたの二人の息子、あなたの息子アヒマアツとエブヤタルの息子ヨナタンも、あなたがたと一緒に。

見なさい。私は、あなたがたから知らせのことばが来るまで、荒野の草原でゆっくり待とう。」

ツアドクとエブヤタルは神の箱をエルサレムに持ち帰り、そこにとどまった。

*神の言葉を受け、民に告げるのが祭司の務め。



【嘆きの道中】 II サムエル15:30～31

ダビデはオリーブ山の坂を登った。彼は泣きながら登り、その頭をおおい、裸足で登った*。彼と一緒にいた民もみな、頭をおおい、泣きながら登った。

そのときダビデは、「アヒトフェルがアブサロムの謀反に荷担している」と知らされた。ダビデは言った。「【主】よ、どうかアヒトフェルの助言を愚かなものにしてください。」

*ただ主の前に、嘆きの感情をさらけだすダビデ。

→深い悔い改めと嘆願の祈りの姿でもあった。



【フシャイへの依頼】 II サムエル15:32～34

ダビデが、神を礼拝する場所になっていた山の頂に来たとき、見よ、アルキ人フシャイが上着を引き裂き、頭に土をかぶってダビデに会いに来た。

ダビデは彼に言った。「もしあなたが私と一緒に行くなら、あなたは私の重荷になる。

しかしもし、あなたが都に戻って、アブサロムに『王よ、私はあなたのしもべになります。これまであなたの父上のしもべであったように、今、私はあなたのしもべになります』と言うなら、あなたは私のためにアヒトフェルの助言を打ち破ることになる。」



【都に残るフシャイ】 II サムエル15:35～37

あそこには祭司のツアドクとエブヤタルも、あなたと一緒にいるではないか。あなたは王の家から聞くことは何でも、祭司のツアドクとエブヤタルに告げるのだ。

見よ、あそこには、彼らの二人の息子、ツアドクの子アヒマアツとエブヤタルの子ヨナタンが彼らとともにいる。二人をよこして、あなたがたが聞いたことを残らず私に伝えてくれ。」

ダビデの友フシャイは都に帰った。そのころ、アブサロムもエルサレムに着いた。



危機一髪
逃れたダビデ

【残留組・フシャイ・祭司・十人の側女】

ダビデ側

敵側



祭司
ツアドク

息子



アヒマアツ ヨナタン



祭司
エブヤタル

息子



忠誠



賢者
フシャイ



ダビデ王

忠誠



ガテ人イタイ
ペリシテから
の亡命者

対立



アブサロム

讐讐



参謀
アヒトフェル

信頼



II. ダビデの都落ち

サムエル記 II 16章

低地に下る荒野

【僕ツィバ】 II サムエル16:1

ダビデは山の頂から少し下った。見ると、メフィボシェテのしもべツィバ*が王を迎えていた。彼は、鞍を置いた一くびきのろばに、パン二百個、干しぶどう百房、夏の果物百個、ぶどう酒一袋を載せていた。

*メフィボシェテ…ダビデの親友ヨナタンの息子。

ダビデが王宮に招き、家族同様に扱っていた。

→オリーブ山の反対側で待っていた僕ツィバ

■逃亡するダビデの周囲で様々な人間模様が…。



【ツィバの企み】 II サムエル16:2~3

王はツィバに言った。「これらは何のためか。」

ツィバは言った。「二頭のろばは王の家族がお乗りになるため、パンと夏の果物は若者たちが食べるため、ぶどう酒は荒野で疲れた者が飲むためです。」

王は言った。「あなたの主人の息子はどこにいるのか。」ツィバは王に言った。「今、エルサレムにとどまっております。あの方は、『今日、イスラエルの家は、父の王国を私に返してくれる*』と言つておりました。」

*ありえないこと …後にツィバの嘘と判明。



【ゲラの子シムイ】 II サムエル16:4~5

王はツィバに言った。「見よ、メフィボシェテのものはみな、あなたのものだ。」ツィバは言った。
「王様。あなた様のご好意をいただくことができますように、伏してお願いいいたします。」

ダビデ王がバフリムまで来ると、見よ、サウルの家の一族の一人が、そこから出て來た。その名はゲラの子シムイで、盛んに呪いのことばを吐きながら出て來た。

■シムイの策略にはまってしまったダビデ。
そこにもう一人、サウル家に関連する者が!!



【ダビデを呪うシムイ】 II サムエル16:6~8

彼は、ダビデとダビデ王のすべての家来たちに向かって石を投げつけた。兵たちと勇士たちはみな、王の右左にいた。

シムイは呪ってこう言った。「出て行け、出て行け。血まみれの男、よこしまな者よ。

【主】がサウルの家のすべての血に報いたのだ。
サウルに代わって王となつたおまえに対して。

【主】は息子アブサロムの手に王位を渡した。今、
おまえはわざわいにあうのだ。おまえは血まみれ
の男なのだから。」



【主の心を聴くダビデ】 II サムエル16:9～10

ツェルヤの子アビシャイ*が王に言った。「この死んだ犬めが、わが主君である王を呪ってよいものでしょうか。行って、あの首をはねさせてください。」

王は言った。「ツェルヤの息子たちよ。これは私のことで、あなたがたに何の関わりがあるのか。彼が呪うのは、【主】が彼に『ダビデを呪え』と言わされたからだ*。だれが彼に『おまえは、どうしてこういうことをするのだ』と言えるだろうか。」

*将軍ヨアブの兄弟。三十勇士の長。

*主からの懲らしめとして受け取るダビデ。



【へりくだり聴く主の心】 II サムエル16:11～12

ダビデはアビシャイと彼のすべての家来たちに言った。「見よ。私の身から出た私の息子さえ、私のいのちを狙っている。今、このベニヤミン人としては、なおさらのことだ。放っておきなさい。彼に呪わせなさい。【主】が彼に命じられたのだから。

おそらく、【主】は私の心をご覧になるだろう。そして【主】は今日の彼の呪いに代えて、私に良いことをもって報いてくださるだろう。」

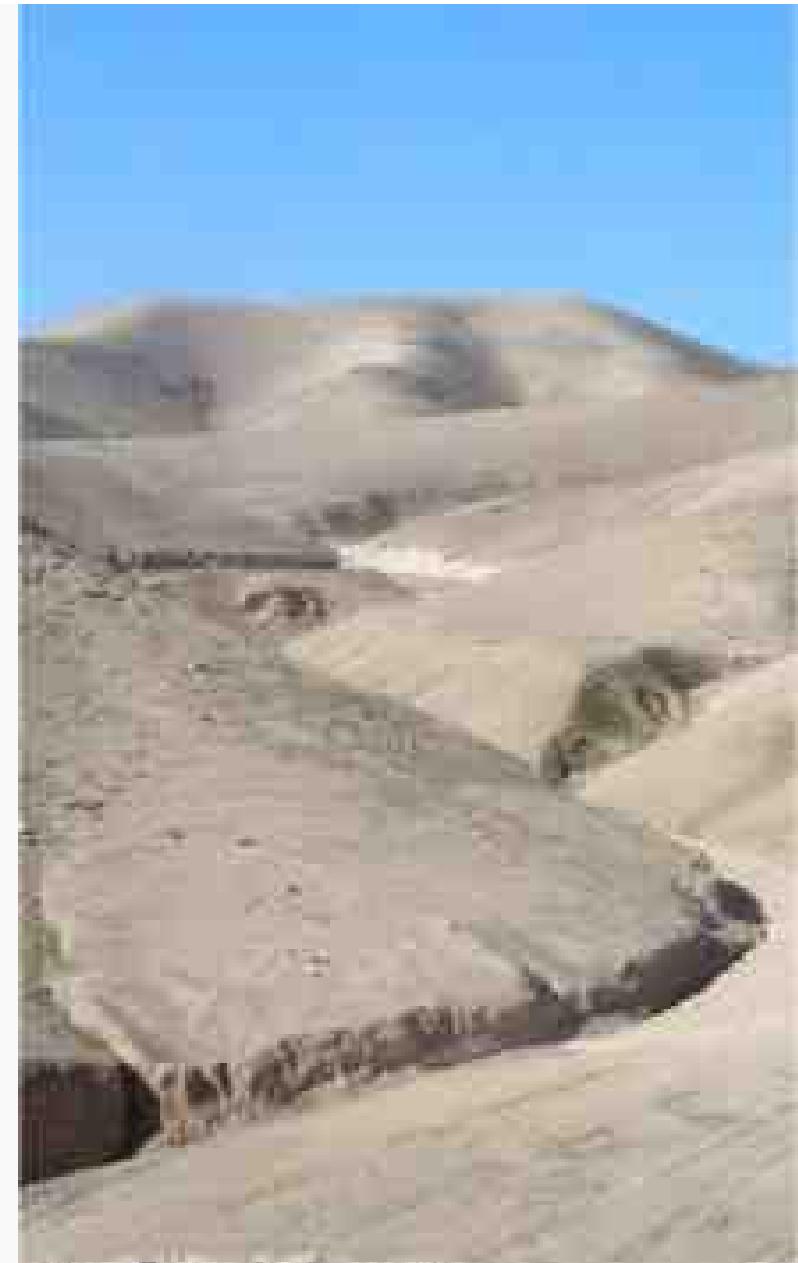
■悔い改めて、主の声を聞きとったダビデ。
厳しい懲らしめにも失われていない救いの確信。



【下っていく一行】 II サムエル16:13～14

ダビデとその部下たちは道を進んで行った。シムイは、山の中腹をダビデと並行して歩きながら、呪ったり、石を投げたり、土のちりをかけたりしていた。王も、王とともに行った兵もみな、疲れたのでそこで一息ついた。」

■罵られ呪われながら、ヨルダンの低地へ下る荒野の道は、肉体的にも精神的にも大きな疲労をダビデの一一向に与えたろう。



【一方、エルサレムで】 IIサムエル16:15～16

アブサロムとすべての民、イスラエルの人々はエルサレムに入った。アヒトフェルも一緒であった。ダビデの友アルキ人フシャイがアブサロムのところに来たとき、フシャイはアブサロムに言った。

「王様万歳。王様万歳*。」

■ダビデの命を受け、都に戻ったフシャイは、早速、アブサロムに働きかけた。

*「ハーヤー、メレク」…「王に(主が共に)あれ」
→フシャイの心にある王は、ダビデただ一人



フシャイの神は
ただお一人

【取り入るフシャイ】 II サムエル16:17～19

アブサロムはフシャイに言った。「これが、あなたの友への忠誠の表れなのか。なぜあなたは、あなたの友と一緒に行かなかったのか。」

フシャイはアブサロムに言った。「いいえ、【主】と、この民、イスラエルのすべての人々が選んだ方に私はつき、その方と一緒にとどまります。

また、私はだれに仕えるべきでしょうか。私の友の子に仕えるべきではありませんか。私はあなた様の父上に仕えたように、あなた様にもお仕えいたします。」



ダビデ側



僕

親友の子

ダビデ王



僕ツィバ



賢者
フシャイ



勇士
アビシャイ

殺意



シムイ

アブサロム側



アブサロム

進言



参謀
アヒトフェル



対立

呪い

信頼

忠誠

贈り物

【アヒトフェルの提言】 II サムエル16:20～21

アブサロムはアヒトフェルに言った。「あなたがたで相談しなさい。われわれは、どうしたらよいだろうか。」

アヒトフェルはアブサロムに言った。「父上が王宮の留守番に残した側女たちのところにお入りください*。全イスラエルが、あなたは父上に憎まれるようなことをされたと聞くでしょう。あなたにくみする者はみな、勇気を出すでしょう。」

*王権の代替わりに前王のハーレムを引き継ぐ。

→この時代には一般的な王の権威のアピール。



【成就した神の言葉】 II サムエル16:22～23

アブサロムのために屋上に天幕が張られ、アブサロムは全イスラエルの目の前で、父の側女たちのところに入った。

当時、アヒトフェルの進言する助言は、人が神のことばを伺って得ることばのようであった。アヒトフェルの助言はすべて、ダビデにもアブサロムにもそのように思われた。

- アブサロムの謀反、反逆者アヒトフェルの提言。
→これらを通して、主がダビデに宣告した
罪の懲らしめが成就された!!



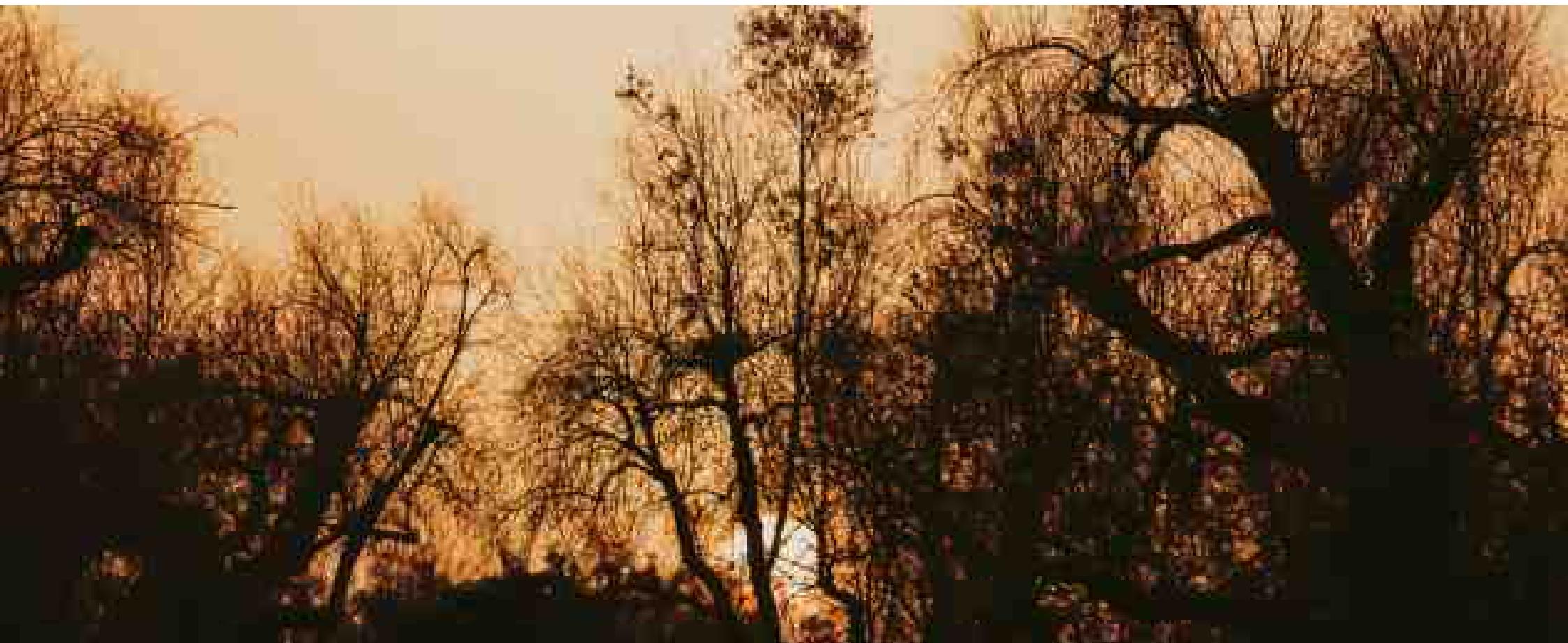
背後に働く
神ご自身

II サムエル12:10～12

『今や剣は、とこしえまでもあなたの家から離れない。あなたがわたしを蔑み、ヒツタイト人ウリヤの妻を奪い取り、自分の妻にしたからだ。』

【主】はこう言われる。『見よ、わたしはあなたの家の中から、あなたの上にわざわいを引き起こす。あなたの妻たちをあなたの目の前で奪い取り、あなたの隣人に与える。彼は、白昼公然と、あなたの妻たちと寝るようになる。

あなたは隠れてそれでしたが、わたしはイスラエル全体の前で、白日のもとで、このことを行う。』』



ダビデの賛歌。ダビデがその子アブサロムから逃れたときに。

聖書朗読 詩篇3篇

詩篇3

<3> ダビデの賛歌。ダビデがその子アブサロムから逃れたときに。

3:1 【主】 よなんと私の敵が多くなり私に向かい立つ者が多くいることでしょう。

3:2 多くの者が私のたましいのことを言っています。「彼には神の救いがない」と。セラ

3:3 しかし 【主】 よあなたこそ私の周りを囲む盾私の栄光私の頭を上げる方。

3:4 私は声をあげて 【主】 を呼び求める。すると主はその聖なる山から私に答えてくださる。セラ

3:5 私は身を横たえて眠りまた目を覚ます。【主】 が私を支えてくださるから。

3:6 私は幾万の民をも恐れない。彼らが私を取り囲もうとも。

3:7 【主】 よ立ち上がってください。私の神よお救いください。あなたは私のすべての敵の頬を打ち悪しき者の歯を碎いてくださいます。

3:8 救いは 【主】 にあります。あなたの民にあなたの祝福がありますように。セラ



IV. まとめと適用

悔い改めつつ救いの確信を深めよう

エルサレム近郊の夕景

【都落ちにいたるまでのダビデの言行① ○と×

- 力を誇示するアブサロムの行状を見逃した。
- 信仰を理由にしたアブサロムの言葉を真に受け、ヘブロンに送った。
- アブサロムの謀反を知り、即、都から脱出した。側女十人を残した。
- 忠誠を誓ったガテ人イタイの同行を認めた。
- 神の箱を返させ、祭司たちを都にとどまらせた。

【都落ちにいたるまでのダビデの言行②】

- 賢者フシャイを都に戻らせた。
 - メフィボシェテの僕ツィバに、彼の主人の土地を与えた。
 - シムイの呪いを神の懲らしめとして受け止めた。
- 揺れながらも、**着実に主の前に悔い改めたダビデの姿が見て取れる。**
「おそらく、【主】は私の心をご覧になるだろう。そして【主】は今日の彼の呪いに代えて、私に良いことをもって報いてくださるだろう。
|| サム16:12」

【ダビデに学ぶ、救いの根拠】

- 都落ちの悲劇のただ中でむしろ、救いの確信を深めたダビデ。
- 懲らしめられる者は幸い。父なる神が子とみなしてくださるから。
- 悔い改め、主の懲らしめを甘んじて受け取り、
主の御言葉に立ち帰り、主の約束の上に堅く立とう。
- ダビデは永遠のダビデ契約を思い起こし、救いの確かさを味わった。
私たちが思い起こすべきは、主イエスの一度きりの贖いの御業。

【ダビデの都落ち・オリーブ山とメシア】

- オリーブ山を越え、ダビデは難を逃れたが、
メシアであるイエスは、オリーブ山で捕らえられ、十字架に。
- ダビデ契約に基づく、ダビデの救いの根拠は、
究極的には、ダビデの子孫として現れた、メシア、イエスにある。
- 世にあってメシアは迫害を受けた。人の取り得る態度は二つに一つ。
ガテ人イタイのように、異邦人である私たちも選択を迫られる。
 - 主イエスにつき、世で辱められ、神の国で栄誉を得るか。
 - 世につき、主に裁かれ、永遠の滅びに至るのか。

【ダビデは戻った。メシアも帰ってこられる】

- 喜び躍って都に上ったダビデは、悲嘆の内に都落ちした。
しかし、その身は守られ、再び王として都に戻った。
- 歓喜の中迎えられたメシアは、苦難の内に捕らえられた。
私の罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、復活された
主イエスは生きて天におられ、王の王として再び帰られる。
真実の神の都、世界の中心となったエルサレムに。

ダビデのように、主の約束を信頼して堅く立ち、御言葉の学びを深め、救いの確信を深めつつ、喜びの福音を告げ知らせていく

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
- ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
- ③三日目に復活(ふっかつ)したこと、を信じます。

この福音(ふくいん)の上に堅(かた)く立ち、救(すく)いの確信(かくしん)を深(ふか)めていくことができますように。

ますます喜(よろこ)んで、御言葉(みことば)を学ばせてください。

罪を犯(おか)せば こらしめがありますが、悔(く)い改(あらた)めた者を、主はゆるしてくださいます。日々へりくだり、ただ主に従(したが)い、歩む者としてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」

鹿追教会のライブ配信のお知らせ

★日曜礼拝 …毎週日曜日午前10時半より

★イッピーとかち こどものつどい …第一、第三(土)
2021年9月18日(土)午後1時半より

★Youtubeバイブルスタディ
2021年9月14日(火)午前10時より コリント第一 3章